

クラーク室内管弦楽団

第42回演奏会

サマーコンサート



2017年8月25日(金) 19:00 開演

北海道大学クラーク会館 講堂

入場無料



プログラム

L. v. ベートーヴェン (1770-1827)

交響曲第2番 二長調 Op. 36

R. ワーグナー (1813-1883)

交響曲 八長調 WWV. 29

指揮：奥 聡 (メディア・コミュニケーション研究院)

お問い合わせ：011-706-2493 (国際食資源学院 曾根輝雄)

プログラム・ノート

棋士の藤井聡太くんが中学生でありながら、プロとしての公式戦29連勝という新記録を打ち立てたというニュースは記憶に新しいところです。あるいは、パキスタン出身のマララ・ユスフザイが17歳の誕生日に国連で行った「世界の子供に教育を」は歴史に残る名スピーチでした（その年、史上最年少のノーベル賞（平和賞）受賞者となる）。神童や若き才能はいつの時代のどこ場所にもあるようですが、クラシック音楽の世界を見ても、わずか8歳で最初の交響曲を書いたモーツァルトを筆頭に数多くの早熟の天才たちがいます。子供のころから才能に恵まれたのちの作曲家たちがしばしば「モーツァルトの再来」と呼ばれるなど、音楽界の「天才少年」としてモーツァルトは別格なのでしょう。「再来」と呼ばれた作曲家、サンサーンスは16歳で、ビゼーは17歳で、そしてショスタコーヴィチは19歳でそれぞれ最初の交響曲を作曲しています。一方で、大作曲家といわれる人の中で、第1交響曲の完成がとても遅かった人の代表はブラームスでしょう。ベートーベンの偉大な9つの交響曲を前に、生真面目なブラームスはなかなか筆が進まず、第1交響曲が完成したのは着想から21年たった、43歳の時でした。

ワーグナーにも**交響曲ハ長調（WWV.29）**があります（そして交響曲はこれだけ）。楽劇に目覚める以前の若きワーグナーが19歳の時（1832年）に作曲したものです。わずか6週間で書き上げたということですから、やはり凡人ではありませんが、後のワーグナーを知る人から見ると、思わず「同じ人?」と言いたくなるような部分も散見されます。荘厳な前奏部を持つAllegroの第一楽章、メランコリックな主題を持つAndanteの第二楽章、軽快な三拍子の第三楽章、そして、Allegro molto e vivaceの第四楽章からなる、本格的な交響曲です。作曲技法も曲全体の構成の技術もしっかりしており、部分的にはワーグナーらしさの片鱗も見受けられますが、「何か」ものたりない、どこかあか抜けない感じがします。ワーグナーも最初から「ワーグナー」であったわけではないということでしょうか。

一方のベートーベン先生。習作はいくつもあるようですが、本格的に作品として残っているものはほとんどが20歳を過ぎてからのものようです。ピアノ演奏（特に即興演奏）は若いときから天才的と言われていたようですが、こと作曲に関しては、かならずしも早熟の天才ということではないようです。どちらかという日本人好みの？努力の人であったのかもしれませんが、最初の交響曲は30歳になってから、本日演奏する**交響曲第2番ニ長調（Op.36）**は31～32歳にかけての作品です。第3交響曲「英雄」の陰に隠れてしまっているかもしれませんが、すでにその後のベートーベンを彷彿とさせる、知る人ぞ知る名曲といつてよいでしょう。三拍子のAdagioを前奏曲に軽快なAllegroの第一楽章、ゆったりとした三拍子の第二楽章、第三楽章のScherzoは、その後の交響曲のScherzo楽章に比べるとまだ「優しさ」が「緊張感」よりも勝っている感じがしますが、よくできた音楽になっています。そしてフィナーレ、急なクレッシェンドやsubito P（急に弱くすること）など、ベートーベン色満載で、19世紀前半の大都会ウィーンの喧騒を思わせる、緊張感のある都会的な音楽になっています。

キリスト教を中心とした西洋文化の伝統では、作曲家や詩人は凡人には聞こえない神様の声（「啓示」）を聞き取って、それを一般の人が聞ける・読める形にする人のことでした。スランプに陥るとお酒や薬物の力に頼って、故意に「酩酊状態」おちいって、神の「声」を聴こうとする詩人や作曲家もいたようです。19歳のワーグナーにはどのような啓示があったのか。31歳のベートーベンには？そのようなことを想像しながら本日の曲を聴いてみるのも一興かもしれません。

（メディア・コミュニケーション研究院 奥 聡）

=====

次回演奏会のお知らせ：第43回演奏会 2017年12月27日(水)19:00頃予定 北海道大学クラーク会館 講堂

R. A. シューマン:交響曲第2番

W. A. モーツァルト:ピアノ協奏曲第9番「ジュノム」(ピアノ独奏 岩本七音(市立羊丘中学校))